ネコのパフォーマンス　ザ・キャッツ（写真：那須どうぶつ王国）

岩崎 亜美
IWASAKI Tsugumi

プロフィール
1997年6月5日生まれ。栃木県出身。新潟大学大学院を卒業し、2022年から地元の那須にある那須どうぶつ王国で飼育員として働く。趣味はキャンプ。特技は大きな声を出す事。動物にとって大切なことは何かを考え、飼育員2年目、日々奮闘中。

特集
変わりゆく動物園

MESSAGE 飼育員からみる動物園

生まれた時から私の家では既に3匹の犬を飼っていました。家の周りが田んぼに囲まれているせいか、夜はカエルの鳴き声の中眠りについていました。気づいた時には生活の中に動物がいるのが当たり前でした。そのため、幼い頃から動物に関わる仕事がしたいと漠然と考えていました。高校生の進路選択の時まだ具体的に何がしたいかは決まっておらず、動物に関する勉強ができる大学へ進学することを決め、牛や豚など産業動物について学ぶいわゆる畜産学科に入りました。大学4年次には、体外受精や配偶子凍結など生殖工学技術について研究する研究室に所属しました。その研究内容は家畜動物だけでなく絶滅危惧種の動物に対しても応用できるもので、研究を進めていくうちに日本の動物園でも希少動物などの配偶子保存に取り組んでいることを知りました。そこで私は、自分が学んできたことを生かして動物の保全活動に参加したい、さらに元々種類を問わず動物が好きだったため動物園で働こうと思いました。

動物園で基本的に行う仕事は動物の健康チェック、獣舎の掃除、調餌や給餌、その他必要であれば草食獣に与える青草や木の枝など自然に生えている植物を採取しに行きます。加えて、那須どうぶつ王国では動物の展示だけでなく、動物のパフォーマンスも行っています。動物本来の魅力をパフォーマンスとして作り上げるのも飼育員の重要な仕事です。私が所属するチームでは猫のパフォーマンス「THE CAT'S」の担当をしているため、猫のトレーニングも行っています。また、昨年はカピバラの仔どもが生まれたのですが、母親が仔どもをうまく育てられなかったため、人工哺育となりました。その時は約2か月間、朝は7時から始まり、夜は23時まで1日に数回に分けてミルクをあげていました。動物園では繁殖も積極的に行っているため、このように日常業務に加えて人工哺育を行うことも多いです。

私は動物園で働くようになってから、以前よりも動物園に行くことが多くなりました。その時によく観察するようになったのは展示場の様子です。その動物に対する広さは十分か、動物の本来の動きが引き出せる構造になっているか、生息地と近い作りになっているかなどいわゆる環境エンリッチメントをポイントに見ることが多いです。例えば、カピバラならアマゾン川周辺の水辺に生息する動物のため、泳げる広さの水場があるか、またカピバラは歯が生涯伸び続ける常生歯をもつ動物なので、歯を削るための木や竹のような固いものがあるかなどを見ます。幼い頃は動物を間近で見ることが出来たり触ることが出来たりするとうれしいと感じていましたが、今はその動物が一番野生に近い環境や動きが出来る展示になっていることに魅力を感じます。

前述しましたが、国内の動物園では初となる猫のパフォーマンス「THE CAT'S」を私は担当しています。「THE CAT'S」はコロナ禍で3年ほど休止していましたが、2023年に再開しました。現在は、私は猫のハンドリング、つまり猫のトレーニングをしながらパフォーマンスを進行させていくMCとして出演していますが、出られるようになるまでに1年近くかかりました。まずはセリフを覚え、抑揚のある話し方や間の取り方、強弱を付ける位置、表情や姿勢、仕草の練習を猫がいない状態で行いました。並行して、先輩に教わりながら猫のトレーニングを行いました。猫は犬と違い集中力が短いため、短時間で楽しくトレーニングを終える必要があり、トレーニングする側の動きが重要になってきます。一頭一頭猫の性格は異なり、動作で気を付ける部分も変わってくるため、それぞれの性格を把握した上でトレーニングを行わなければなりません。複数の猫の性格を把握した上でトレーニングを行い、猫の動きに合わせて話していくMCという役割は、頭から体全体を使わなくてはならず、練習はとても大変でした。しかし、お客様の前でパフォーマンスを初めて行なった時は大きな歓声を直に感じ、何より猫の魅力を引き出せていることに誇りを持てて、やりがいを感じる瞬間でした。

私は動物園で働く飼育員として、動物のパフォーマンスやエンリッチメントを考慮した動物展示を通してより多くの人に動物の魅力を知ってもらうとともに、そんな素敵な動物たちを絶やさないために保全の取り組みにも力を入れていきたいです。